

組織部主催のクラブ交流会が能勢の宿泊施設で開催されました。



○とき 11月2日～3日

○場所 豊中市立青少年自然の家
わっぱる

○参加団体 14名(11クラブ)

きたろう HC2名 OAR2名 くすのき1名 泉州1名 雜木1名 豊中1名 白峰1名
くまごろう1名 ももんが1名 志峰会1名 女性 HC ハイジ1名 つりばし1名

○日程と内容

11/2 (日) 13:00～17:30 研修室で報告会(その1)

開催の挨拶に始まり、プログラム説明。

今年5月に亡くなった前組織部長濱田光圀さんを偲ぶコーナーを設け全員で黙とうしました。



報告会では下記の方々に海外での体験をお話いただきました。

- 1) ニュージーランドの観光 報告 富永公夫(OAR)
- 2) エベレスト街道の資料 写真報告 富永公夫(OAR)
- 3) キリマンジャロの資料 写真報告 富永公夫(OAR)
- 4) ネパール・トレッキング報告 佐藤俊明(雑木の会)
- 5) 北欧ラップランドの山旅(2011年夏) 大西清見(泉州労山)
- 6) 参加者からの近況報告・山の報告

20:00～研修室で報告会 (その2)

- 7) クマとの遭遇に備える(比良山系でもツキノワグマ目撃多数)

21:00～22:00 懇親会 22:00 就寝

11/3(月) 9:00～11:30 研修室で講習会

- ・4/5 の和歌山県連主催近畿ブロック搬出講習会の搬送実技
- ・7/5 全国搬出技術交流会のザイルタンカ実技
- ・三角巾救急法とロープワーク講習

○ ニュージーランドでは春のスキーのお話を、エベレスト街道では兵庫大阪合同で未踏峰の動画など、キリマンジャロ登頂のお話などスライドに



よる報告があり分かりやすかったです。どちらも是非行きたいところです。

○ネパールトレッキング報告では、今 10/24 に帰国したばかりの生の報告でした。4回目のネパール渡航で、出発直前のトラブルやトレッキング中の高度障害などありましたがあ予定通りのコースを楽しまれたようです。



○北欧ラップランドの山旅では、白夜のフィヨルドの世界をトレッキングされています。ラップランドはスカンジナビア半島北部で北極圏北緯66度33分の地域です。参加7名で夏の北欧をレンタカーでキャンプ場4泊、コテージ2泊と野外での生活を満喫されています。



非常に興味深い報告をいただきました。

○クマの遭遇に備える報告では、比良山域山里での出没情報が多く滋賀県警と大津市が注意を呼びかけています。

また、岳人 11 月号では「**クマの身体を知る**」掲載があり学習しました。

- ・**口**：鋭い牙 噛む力も非常に強い、雑種性
- ・**臭覚**：非常に発達して、犬並みかそれ以上に鋭い。
- ・**聴力**：あまり良くない
- ・**頭**：学習能力が高く好奇心が旺盛。美味しいものを、覚えると執着する。
- ・**聴覚**：臭覚と比べると発達していないが、高音に敏感。
- ・**寿命**：野生下での寿命は 20 年前後
- ・**冬眠**：11 月下旬から翌年の 4 月頃。秋には冬眠に備え脂肪を蓄える。
- ・**出産**：数年に一度、1-3 頭を産む。子クマは 1 歳半から 2 歳半の夏頃に親離れ
- ・**足**：時速 40-50km で走る。肉球が発達して二本足でたち上がることもある。

○クマとの遭遇に備える 「クマに出会わないために」

- ・登山前は、クマと出合うのが前提として情報収集する。地元自治体 山岳警備隊など
- ・登山中は、音を発する、クマ鈴、ホイッスルを活用する。定期的に音を立てて人間の存在をクマに伝えることでクマの行動を回避させる。川・沢の近くでは音が伝わりにくないので「ペアホーン」を携行する。登山は可能な限り複数人で行動することが遭難リスクの軽減にもなる。食料やゴミの管理も徹底する。テント場の周りや車の周りには食料やゴミを置きっぱなしにしない。ゴミは可燃性も含めて持ち帰る必要がある。

○クマに出会ってしまったら

- ・遠距離 50m 以上の場合。落ち着いて遠ざかる。ゆっくり 刺激を与えない、後退

・近距離 50m 以内。刺激をあたえない後退。走って逃げる、背中を見せる、荷物を置いて逃げるなどの行動はクマの追跡本能や興奮を引き起こすリスクがあるため禁物。

○全国のクマの出没状況

4-9 月の出没件数は 20792 件。昨年の 1 年分を超えている。過去 5 年間で最多。

死者は 13 人。出没の多い県は岩手県 4499 件、秋田、青森、山形県で、北海道は公表していない。2023 年 24 年と比べて人の生活圏で起きた割合が高くなっている。

死者はヒグマによる死者が 2 人。ツキノワグマによる死者が 11 人。

過去最悪だった 2023 年の 6 人を上回り増加。長野県 1 人、他東北地方で発生。

11 月の大坂府では過去 5 年間で最多で北部の豊能町、能勢町、高槻市などからツキノワグマの目撃、痕跡は 3 日までに 19 件。

秋はクマの活動が活発化するシーズンで夕方から朝方の外出時は注意が必要。報道発表

○専門家は、クマの出没の増加は異常と片付けるのではなく、日常化する可能性が高い。

耕作放棄地が増えて山林と人里の境が不明瞭になってきている。空き家がクマの住処なつたりしていると言っている。

【 クラブ交流会のアンケート結果 】

1. 報告会は参考になりましたか。

①ニュージーランド報告	●参考になった	6 名	●普通 3 名
②キリマンジャロ報告	●参考になった	7 名	●普通 2 名
③ネパールトレッキング報告	●参考になった	7 名	●普通 2 名
④北欧ラップランド報告	●参考になった	6 名	●普通 2 名
	●やや普通	1 名	
⑤クマとの遭遇に備える	●参考になった	9 名	

2. 講習会は参考になりましたか。

①搬出講習	●参考になった	8 名	●普通 1 名
②ザイルタンカ作り方	●参考になった	4 名	錨アミは参考になった
	●普通	4 名	●やや普通 1 名
③ロープワーク	●参考になった	5 名	●普通 2 名
	●やや普通	1 名	
④三角巾	●参考になった	8 名	●やや普通 1 名

3. 山の道具バザー開催はどうでしたか。

●毎年 1 回は開催してほしい 2 名

●開催して良かった 1名

4. 每年クラブ交流会を定例化したら参加しますか。

- 参加する 8名 ●泊でもいい 6名
●日帰りがいい 1名 ●わからない 1名

5. 交流会参加を希望する方へ、どちらを希望しますか。

- 屋外キャンプ施設 (○泊り ○日帰り)
●屋内施設 3名 (●泊り 2名 ○日帰り)
●どちらでもいい 5名

【クラブ交流会の感想 意見など】

- ・講習会のロープワークでは参加者全体の講習となっていました。少数の参加者であることで、他の参加者をないがしろにしているような運営は頂けません。
- 講習会というなら全体を集中させるように運営しないと、今後の広がりが無くなると懸念します。
- ・府連内の各会が高齢化などで活動が縮小して会運営も困難になってきている。
- ・多くの会の方が百名山の輪に参加して思ったのが、行きたい山に行けるチャンスがあれば山に行く。故にその機会作りの場としての交流会や将来的に会の合併などのペアリングの場にならないかと思いました。
- ・今回、初めての参加者 1名を除くと、毎度おなじみの顔ぶれ、おなじみのメンバー大いに結構では是非毎年参加してほしいが仲良し会のようになりつつある。私を含めて普段あまり連盟活動に関心を持たない各会会員に趣旨を理解頂いたうえ参加してもらえるように、組織部として事前に何らかの働きかけ(工夫)が必要ではないかと思います。
- ・夜はゆっくりお酒を飲んで、本音の話をしたいです。
- ・報告会や講習会など学びも多く楽しかった。
- ・各会の代表者又は会員が参加できればと開催日とテーマを決めたら良かった。
- ・今回の応急措置、搬出訓練はためになった。忘れていたことを思い出した。
- ・食事の準備の際、参加者協力体制に一体感があって良かった。
- ・少し寒かった (施設)
- ・懇談会は後 30 分ほしかった。

6. 交流会でテーマにしたい内容があれば、ご記入ください。

- ・クマ情報のように時事的な事象や重大事故にかかわる内容
- ・計量化の工夫、遭難事例の紹介、搬出は毎回実施してほしい。

- ・各会の活動状況と連盟とのかかわりについて。
- ・各員の山の動きを発表する場として活用して、情報交換できればと思います。
- ・会員が共有する学びのテーマを出してほしかった。
- ・クマ情報は今後の山行活動に情報提供することは必要。逆にクマを恐れて山に行かなくなるのではと心配です。
- ・実践で体を動かすこと 筋トレ。
- ・休憩時間に山筋体操をしたら良かった。

<報告会>



バザー展示品



ザイル担架

三角巾



ザックの連結方式

背負い搬送

ザイルの錨アミ

また、会場で装備品のバザー展示したところ、¥6760円の収益がありました。
まだまだ使えるけど、使ってほしい山の装備品が活躍されることになります。

今回のバザー収益金は能登半島地震災害支援金として活用させていただきます。
有難うございました。

※出品 ザック 沢靴 ツエルト テント ガス ガスバーナー ハーネス ツトックキヤップ
さて来年はどこで開催 案 六甲山神戸市立青少年自然の家 集中登山